

蔵の町並み 村田町歩きガイド



「みちのく宮城の小京都 村田 蔵の町並み」
村田商人 やましよう(金)記念館の店舗

村田「蔵の町並み」に、
ようこそおいでくださいました。

ここは、江戸時代に紅花交易で栄えた町並みです。
当時の栄華を伝える豪華な店蔵と門が一對となり
連続する景観が印象的で特色と言われています。
ゆつくりと散策しながら、建築様式のみならず
上方からもたらされた

文化にもふれる「町歩き」をお楽しみください。

村田町

はじめに…

蔵の町「村田」の物語

江戸を発し、白石・大河原・船岡・岩沼、そして仙台に至る奥州街道と、仙台を発し笹谷峠を越え山形に至る笹谷街道と羽前街道を結ぶ街道の脇往還宿場として、商都の賑わいをみせた「村田」。

村田商人は、仙台藩内で栽培された紅花や藍を仙南地方で買い集め、上方や江戸に運び商取引を行っていました。

当時の栄華を伝える豪華な店蔵と門が一對となって、連続する景観が印象的であり、これが村田の特色といわれています。通りの両側には短冊形の地割が整然と並び、江戸時代の「町人地」の姿を今に留めています。

また建築様式のみならず、江戸時代に活躍した村田商人の「紅花商い」を通じて、上方から様々な文化がもたらされました。

村田町は、その地形が京都を思わせることや蔵の町並みなどから「みちのく宮城の小京都・村田」として全国京都会議に加盟しています。



何故、村田には 店蔵の町並みがあるのでしょうか？

その理由は…

江戸時代の後半期に仙台藩内で栽培が盛んだった紅花や藍のうち、この柴田・刈田・伊具で栽培された紅花を村田商人が買い集め、上方や江戸に運び商取引を行っていました。古くから栽培されていた山形の最上紅花に対し、奥州仙台紅花と呼ばれていました。

記録によると、村田の紅花商人は11軒あり、当時の取引高は現在の約30億円にも及ぶくらいだったようです。

また、奥州街道と笹谷街道・羽前街道を結ぶ脇往還宿場で、商品流通のルートとなり、宿場としても栄えました。更には六斎市（一と六の付く日に市が立つ）もひらかれ、賑わっていた町でもあります。

また、紅花がこの地方で栽培されていたことが描かれている絵画が、山形美術館にあります。横山華山作の紅花屏風という二双一對の作品のうち、一雙が大河原町金ヶ瀬地区で行われていた紅花栽培から紅餅作り・出荷までを当地に出向き写生したものだとされています。



建物の特徴を、 見てみましょう。

蔵の特徴は…

多くは店蔵と門が一對となって、造られていることです。

明治期か、それ以前の店蔵が20軒近く残っており、比較的新しい建物でも大正中期以前のものです。

それぞれの店蔵で、いろいろな特徴が残されています。見て行くことにしましょう。

店蔵の柱・梁の多くは、ケヤキが使われています。

- 太い柱は、30cm角。太い梁は、30cm×60cmの太さがあります。現在では、このような太いケヤキは入手困難であるため、新規の建築は不可能であると思われます。これらの柱・梁は木組みで組まれており釘は使われていないと言われてます。確かに、これほど太く厚い材料を貫通するような長さの釘はなく、表面に釘の頭の跡さえ見られません。

- 二階に上がる階段は、箱階段・階段箆筒といわれ、階段に引出しや物入れが組み込まれたものとなっています。

- 店蔵の二階の前に張り出した、下屋の内側の上には、「部(しとみ)」が収納されています。店蔵が作られた頃は、ガラス戸はあまりなく、あっても格子戸くらいであったと考えられます。防犯上、上から下ろす木製の「部(しとみ)」を備えていました。言ってみれば今のシャッターの原型とも言え雨戸が「部(しとみ)」なのです。

さて、外回りに目を転じてみましょう。

- 壁の厚さは30cmもあり、それ自体防火構造になっています。蔵の建築・壁の仕上げも3年かかったと言われてます。漆喰の外壁と海鼠壁の白と黒のコントラストが際立っています。

- 昔からの商家には屋号があり、「(カネ)・(ヤマ)」等がついているものも多く見られます。また、屋根の鬼瓦や雨樋にまで屋号を入れているところもあります。

- これらの蔵の建築年次を示すものとしては、棟札があります。棟札は、上棟の時に大工の棟梁が、片面に神様の名前を、工事の安全やその家の繁栄を願って書き、さらに片面に上棟の年月日、棟梁の名前、建て主の名前を墨書しているものです。

蔵の町並み散策を是非お楽しみください。

村田町で開催される 主なイベント

開催日・期間	イベント名	開催場所
1月 第4土曜日前後の金・土・日	クリスマスローズ展	道の駅 村田
3月 第4日曜日と前日の土曜日	むらた町家の締めぐり 小京都むらた写真展	蔵の町並み 村田町歴史みらい館 蔵の町並み
5月 中旬	蛇腹まつり	白鳥神社
6月 上旬	蔵の町むらた芸芸市	村田町民体育館 等
6月 上旬～中旬	そら豆まつり	道の駅 村田
8月 1～31日	どうもころし味来 販売推奨月間	道の駅 村田
8月 17日	伊達宗高公まつり 花火大会	龍島院
9月 下旬の土・日	新米まつり	道の駅 村田
10月 体育の日の前日の日曜日 第3土曜をはさんだ金曜・土曜・日曜	蔵の町むらた布袋まつり みやぎ村田町 蔵の陶器市	町中心部 蔵の町並み
11月 上旬	蔵ing 村田新そばまつり	蔵の町並み

町内で開催予定の主な観光行事です。
天候等の都合により、開催日や開催場所が変更となる場合があります。

村田町 ご案内

交通機関をご利用の場合

- 東北本線JR大河原駅下車、宮城交通バス、村田・川崎行 …約20分
- 高速バス、仙台—村田・川崎・遠刈田行 …約45分
- 仙台空港より車で …約40分

車でお越しの場合

- 東北自動車道村田IC (仙台駅より仙台西道路経由 …約35分)

- 無料駐車場をご利用ください。
- 中央公民館駐車場 ●本町商店会駐車場
 - 荒町商店会駐車場



「蔵」のことを、 知って頂くために… 蔵の豆知識

村田の「蔵」の多くが店蔵と門が一對になって造られているのが特徴です。
散策を、楽しんでそして知って頂くために、いくつかの専門用語をご紹介します。



店蔵 (たなぐら)

土蔵とは、日本の伝統的な建築様式のひとつで、外壁を土壁とし漆喰などで仕上げられるもの。店舗・住居を兼ねるものは「見世蔵(店蔵)」と呼ばれることもあり、倉庫・保管庫として建てられた蔵とは分化して発展してきた。



塗屋 (ぬりや)
柱を塗り籠めて、垂木などの軒裏を表したものを指して、土蔵造りと区分する。

格子窓 (こうしど)
格子を取り付けた窓。

真壁造 (しんかべづくり)
民家の土壁で壁面を柱と柱の間に取め、柱が外に見える壁を有する建物。

海鼠壁 (なまこかべ)

土壁の外壁仕上げの一種。平瓦を張り付け、その目地を断面半円筒形に盛り上げ、漆喰を塗って造る技法である。土蔵造りの腰壁仕上げに多く用いられる。



観音開扉窓 (かんのひらぎとびらまど)
蔵の窓につき、手前へ両開きになる開き方を、扉のついた窓。

鉢巻 (はちまき)
土蔵で、防火のため漆喰で厚く取り巻いている軒下の部分を指す呼称。数段に塗って持ち出したり、織型をつけたものもある。



置屋根 (おきやね)

土蔵の二重屋根を指す呼称。



影盛 (かげもり)

土蔵で、屋根の棟端に取り付ける鬼板(鬼瓦)の裏に造る漆喰の塊をさす。鬼板を立派に見せるため鬼板より大きめに造り、幾重にも重ねて厚さ30センチにも及ぶものがある。

箱棟 (はこむね)

漆喰や瓦で覆われた箱型の大棟。影盛となっているのは、升梁だけ。



薬医門 (やくいもん)

門柱の後に控柱を置いて屋根を支える形式の門。門柱は多くは二本であるが、四本の場合もある。



腕木門 (うでぎもん)

門柱の前後に腕木を出し、それぞれの腕木に桁をかけて屋根を付けた門。



木戸門 (きどもん)

敷地の表の出入口で、原則として、屋根のない門を指す。多くは後世屋根付きに改造されている。



熨斗瓦積み (のしかわらつみ)

瓦葺屋根で、大棟や下り棟の棟に用いる細長い長方形の平瓦を熨斗瓦と呼び、それを積み上げる方法を言う。

曲梁 (まがりはり)

自然の曲がった樹木を用いた梁。

脇蔵 (わきぐら)

店蔵の脇に位置している蔵。現在村田では、升梁と大沼酒造の二箇所のみ。



「みちのく宮城の小京都 村田 蔵の町並み」
海鼠壁(なまこかべ)と観音開扉窓(かんのひらぎとびらまど)

参考とさせていただきます文献・資料・地図

村田の歴史的町並み	財団法人 日本ナショナルトラスト	平成 6年 3月15日発行
紅花と村田の一人	大沼 悦子 著	平成 9年 3月18日発行
日本民家語彙解説辞典	日本建築学会民家語彙収録部会 (主査・草野 和夫)	平成 5年 9月28日発行
村田町地域産業推進課 蔵の町並み絵はがき集	村田商人やましよう記念館 吉田 康彦 作	平成23年 3月 発行 平成23年12月 発行
村田町史	村田町 発行	昭和52年 3月 発行
店蔵の立面図作成	伊藤 則子・今井 梨渚・古軸業津紀・鈴木 桂葉	

むらた再発見「蔵」の会

平成17年11月に、個性的な蔵造りの町並みを保存活用し、より良い住環境を作るとともに文化・産業の振興の促進に寄与することを目的に設立しました。

※この冊子は、平成23年度に「公益信託大成建設自然・歴史環境基金」からの助成を受け、むらた再発見「蔵」の会が初版を制作したものを、村田町が著作権を継承して発行しています。

監修/むらた再発見「蔵」の会
発行/村田町役場 地域産業推進課 tel.0224-83-2113
平成29年6月 第4版発行